

実施報告

1. 企画名 : 若者の意欲の育成に国際協力を
【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他】
2. 出張者氏名：池田 誠
3. 協力団体 / 依頼元団体名：星槎大学 担当者 高柳
4. 実施予定日時：平成 23 年 6 月 2 日 14:30~15:30
5. 実施場所：帯広経済センタービル (帯広市西 3 条南 9 丁目 1 番地)
6. 企画の概要及び対象者
 - ①十勝地域で NPO/NGO などに関心のある若者向けに海外で活動する NGO やボランティアなど紹介や、国際協力に関わるプログラムなどについて講演をする。若者の将来を考える中で、様々な生き方があるということを考えることを促した
 - ②若者・学生の海外ボランティア活動や国際協力への意識啓発
 - ③対象は国際協力に関心のある学生や若者 50 名
7. 所感や効果
十勝管内の企業や、若者、国際交流・協力に関心の有る人たちが多くあつまり改めて十勝地区の熱心さについて感じるどころだった。若者の海外離れが叫ばれる中で、参加者は国際活動がもたらす若者への影響力や、取り組みについて熱心に聞いてもらうことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

◆ 写真 (1 枚以上添付)



(財団法人 北海道国際交流センター (HIF))

実施報告

1. 企画名 : 農村コミュニティから国際協力へ

【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他】

2. 出張者氏名：池田 誠

3. 協力団体 / 依頼元団体名：共働学舎新得農場 担当者 宮嶋望

4. 実施予定日時：平成 23 年 6 月 3 日 15:00~16:30

5. 実施場所：共働学舎新得農場（上川郡新得町 9-1）

6. 企画の概要及び対象者

①心身にハンディキャップを持った人たちや農村に暮らす人たちへの NGO 活動、国際協力理解を促すための講演会

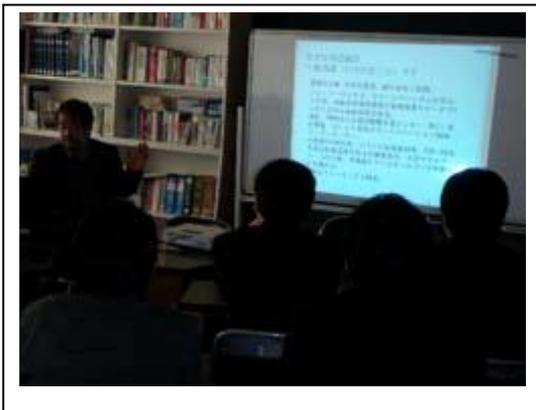
②国際協力が特定の人たちのものではなく、いろいろな人が関われるものだという事についてわかりやすく説明

③国際交流・協力や多文化共生に少しでも関心のある人など幅広く参加を狙う 50 名

7. 所感や効果

心身のハンディを持つ人たち、あるいは家庭や学校で問題を抱えていた人たちなど様々な人が集まるコミュニティで、海外の話は新鮮だったと見えて関心を持ってもらうことができた。また彼らの親世代は海外とのつながりをもっている人も多いため、何か始めたい気持ちを満たす国際協力について参加させたいと思う人も数名見られた。誰にでもできる国際協力をもっと広めてゆきたいと思った。

◆ 写真（1 枚以上添付）



(財団法人 北海道国際交流センター (HIF))

実施報告

1. 企画名 : 国際協力と地域福祉について
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他】
2. 出張者氏名：池田 誠
3. 協力団体 / 依頼元団体名：飛んでけ！車イスの会 担当者 クイン明美
4. 実施予定日時：平成 23 年 6 月 4 日 13:00~14:30
5. 実施場所：飛んでけ！車イスの会（札幌市中央区北 5 条西 6 丁目 2 札通ビル 2F）
6. 企画の概要及び対象者
 - ①国際交流、福祉活動に仕事やボランティア活動でかかわる人のための講演会
 - ②地域の問題を考えることから国際協力社会への関心を持ってもらう
 - ③旅行者が車イスを持ってゆくことによって国際協力がなされるように、無理せずできる国際協力について関心のある 30 名
7. 所感や効果

福祉活動を中心に行う人たちに対して、国際協力の魅力ややりがいについて伝えることができた。もちろん、飛んでけ車いすの人たちも海外には行っているが、NGO 活動が多岐に渡っていることに興味を持ってもらった。また、福祉の視点も絡めつつ、震災復興のボランティア活動についても興味を持つ人が多く、改めて、自分たちのできることを、そして国際間のつながりについて考えるいい機会となった。

- ◆ 写真（1 枚以上添付）



実施報告

1. 企画名 : フェアトレードフェスタ 2011 in さっぽろ
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（NGO 相談コーナー）】
2. 出張者氏名：池田 誠
3. 協力団体 / 依頼元団体名：フェアトレードフェスタ 2011 in さっぽろ実行委員会
4. 実施予定日時：平成 23 年 6 月 25、26 日 10:00~17:00
5. 実施場所：札幌市大通地下街オーロラスクエア
(札幌市中央区大通西 1 丁目)

6. 企画の概要及び対象者

札幌の中心大通公園で行われるフェアトレードイベント。今年で 5 回目になるが、今年も 10000 人以上の来客があり、多くの人たちに NGO 活動を啓蒙する機会となった。また NGO 相談業務自体についても積極的に広報活動をしていくことができた。来場者の多くは一般の方も多いためフェアトレードから国際協力に関心が高めるチャンスとなっている。

7. 所感や効果

- ◆ 今年も学生や、国際協力に関心の有る社会人など多くの方が訪れた。身近に感じられる国際協力ということもあり、気軽に相談コーナーに来る方も多かったのが特徴的だ。普段の事務所での対応では、訪れない親子連れや、高齢者などとも話す機会があり、身近な国際協力、そして NGO を広める方法を考える必要性を感じるものだった。
- ◆ 写真（1 枚以上添付）



(財団法人 北海道国際交流センター (HIF))

平成 23 年 7 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
清水 俊弘

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名： 学生にできる「支援」ってなんだろう？【形態：セミナー】
2. 出張者氏名： 山崎 勝
3. 依頼元／主催団体名等： 学生国際協力団体 WANNA
4. 実施日時： 平成 23 年 6 月 24 日 18 時 00 分 ～ 20 時 00 分
5. 実施場所： 広島大学 東広島キャンパス 学生プラザ 多目的教室 1&2
(広島県東広島市鏡山 1 丁目 3-2)
6. 企画の概要：
 - ・ JICA 主催のカンボジアスタディーツアーに参加した学生による報告会で、報告へのコメントや学生ができる国際協力について伝える。
 - ・ 参加者： 広島大学学生 11 名およびひろしま国際センター職員 1 名
7. セミナーの内容：
 - 1) セミナーの内容
カンボジアでは、国際協力として NGO だけではなく、一般の人や旅行者などが学校や井戸などを支援する例も増えている。しかし、建設後すぐに壊れてしまって放置されていたり、あまり利用されないというケースも見られる。そうした状況に対して、カンボジアの人びとの管理方法が悪いと批判する人も見られる。
しかし、その支援自体がそもそも必要であったのかどうか、私たちは考えなくてはならない。また、カンボジアの人びとが自分たちでもできることまで支援してしまうと、そこにいる人々が自ら経験し学ぶ機会を失ってしまう。また、何をどこまで支援するのかを考えることも重要である。井戸支援においても、人びとの利便性だけが目的ならば、全世界帯に井戸を設置したり、あるいは、水道水からきれいな水が出てくるまで支援しなくてはならなくなる。それではキリがない。
支援をすること、国際協力をするのは良いことであると思うが、そこで暮らす人々の声を聞くことが重要である。しかし、村では、声をあげることができない人も多く、村長な

どの話だけを聞いても不十分である。残念なことに、外国人の支援による井戸の多くは村長の家の庭に設置されている場合が多いが、本当に人びとのためになる支援をするためには、時間をかけて人びととの信頼関係を築き、その声に耳を傾けていく必要がある。

2) 参加者のコメント、質問:

① 今日は貴重な話をありがとうございました。やはり現地で実際に活動して経験した方の言葉には説得力を感じました。また、NGOの方のお話はより専門的で興味深かったです。お話を通じて、水の価値の違い、教育制度の崩壊、援助の在り方、賄賂の実情など考えさせられることがたくさんありました。私も学生のうちにみなさんのような経験ができないか、調べてみることにします。

② 現地でいろいろ見てきてたくさん勉強してきたということが分かりました。行ってみたことのある人しかできない経験をしてきているということで、想いが強かつたわってきました。

③ どうやって支援する村を決定するのか？

【回答】まずは、統計的なデータを集め、どの地域が特に支援を必要としているのかを判断する。次に、実際に現地を訪問し、まずは、行政機関を訪問してさらに詳細な基礎情報を集める。その後、実際に現地を訪問し、村の人などにインタビューを行い、村の人が抱えている問題と、当団体が提供できる支援とが一致しているかどうかを確認し、最終的に行政機関や村の人が活動に前向きであるかどうかを確認して、活動するかどうかを決定する。

④ 学校へ行けない子どもと行ける子どもの違いは？

【回答】経済的な理由が大きい。10歳ぐらいになると、労働力としてみなされるので、貧困家庭では働かなくてはならない。また、授業以外にお金を払って補習授業にでないと進級試験に落ちてしまうケースがある。そのため、お金がない家庭の子どもは、補習授業にいけず、辞めてしまう場合がある。

⑤ 孤児院などは、役に立っているのか？

【回答】実際には、孤児ではなく、経済的理由で子どもを預けるケースが多い。そのため、正確には孤児院ではなく、養護施設に近い。本来は、親や親戚、コミュニティーなどが子どもを育ててきたが、こうした施設があることで、安易に子どもを預けてしまうという傾向もある。その一方で、人身売買の被害にあった子どもなど、本当に支援や保護が必要な子どももいる。また、多くの孤児院が18歳まで子どもを預かるが、18歳になっても仕事が見つからず自立できないという問題が多々ある。

⑥ 学校建設支援は必要なのか？

【回答】確かに、学校は不足している。多くの学校で教室が足りず二部制で授業が行われている。また、地方だと学校が遠いので途中で辞めてしまうケースもある。ただ、より深刻なのは、教員不足の問題。教員が足りないために二部制にせざるをえず、また、地方では学校があっても先生がいない。

8. 所感・効果など

教育学部の学生や国際協力を学ぶ大学院生の参加が多く、全体的にカンボジアの教育事情についての質問などが多かった。参加者の半数程度はカンボジアに行ったことがあるとのことであったが、日本の暮らしとの比較の中で、カンボジアでは電気、ガス、水道もない生活を送っている人々がいることに驚いているようであったが、決して日本の暮らしが先進的であるのではなく、それぞれの地域にはそれぞれの風土や文化にあった暮らし方が合理的であることを理解してもらうことができた。

また、カンボジアの貧困問題について、例えば、カンボジアの多くの小農が大規模農業の影響を受け、苦しい生活を送っているが、そこで生産された農作物が日本にも輸入されているとすれば、カンボジア貧困問題は日本人の生活とも無関係ではないということも理解してもらうことができた。

こうしたことから、国際協力に関わるにあたっては、単に外国で起こっている貧困問題を解決するというだけではなく、日本人である私たちも当事者であるという問題意識をもって関わるのが重要であるということも、参加した学生に理解してもらうことができた。



以上

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人ソムニード
NGO 相談者氏名 竹内ゆみ子

NGO相談員による出張サービス実施報告書

5月25日付貴信にて承認いただきました出張サービスについて、以下の通り実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名：富山県国際交流・協力、多分化共生担当市町村課長等会議
【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他（ ）】
2. 出張者氏名：竹内ゆみ子
3. 依頼元／主催団体名等：富山県観光・地域振興課 国際・日本海政策課
(依頼はJICA富山デスクより受ける)
4. 実施予定日時：平成23年6月3日 13時30分～16時00分
5. 実施場所：環日本海交流会館 大会議室（富山県富山市内幸町6番6号）
6. 参加者数:参加者21人
7. 相談件数：6件
8. 企画の概要：講演形式で、海外活動と日本国内活動の事例の紹介
9. 実施内容：・NGOの活動について・NGOと行政との連携事業事例
・海外での地域作りの経験を、国内の地域作りに活かすには 等
10. 所感及び効果

行政職員を対象に、NGOの活動と行政との活動の違いを主に海外と国内での地域づくり活動を紹介。行政職員から多文化共生事業の具体的なやり方、人の集め方などの質問を多く受け、多文化共生事業に関わる地方行政職員の現場での悩みが理解できた。多文化共生を内なる国際協力と捉えるとき、NGO相談員の立場は、地方にこそ必要だと感じた。



外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人ソムニード
N G O相談者氏名 末武由貴子

N G O相談員による出張サービス実施報告書

出張サービスについて、以下の通り実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名：東海・北陸高等学校国際教育研究連絡協議会会長会
【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他（ ）】
2. 出張者氏名：末武由貴子
3. 依頼元／主催団体名等：東海・北陸高等学校国際教育研究連絡協議会
(依頼は岐阜県J I C Aデスクより受ける)
4. 実施予定日時：平成23年6月24日13：30～16：30
(内、講演15：30～16：30)
5. 実施場所：グランベール岐山5F会議室（岐阜県岐阜市柳ヶ通6丁目14番地）
6. 参加者数：東海・北陸地域の国際教育研究連絡協議会担当教員、校長、
J I C A担当者15人
7. 相談件数：5件
8. 企画の概要：海外・国内事業内容と外国事情について
9. 実施内容：海外での活動内容と、海外事業の経験を活かした、国内で実施している過疎地域活性化事業について伝えた。教員が対象であったため、N G O活動について聞いたことを教育現場ですぐに活かせるよう、国際理解教育での活用方法についても伝えるよう心がけた。

10. 所感及び効果

活発な質疑を通して、活動の様子のみならず、N G O相談員制度の役割とその活用方法、日本の国際協力の現状、海外の状況等についても伝える機会となった。参加教員から、ぜひ我が校でも講演を、というお話しを多数頂いたことから、中部ブロック内でのN G O相談員制度の周知につながったと感じている。



外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

5月30日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 愛知淑徳大学 国際ボランティア論

(ア) 【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】

2. 催しの概況:

実施日 平成23年6月7日(木) 11:10~12:40

場所 愛知淑徳大学星が丘キャンパス(名古屋市名東区)

対象者 大学2~4年生約70人

概要 企画内容: 海外ボランティアやスタディツアーに関心のある学生向けに、スタディツアーの概要を説明し、実際にツアーを実施する中部地域のNGOが自団体のツアーを説明する。目的としては、学生にスタディツアーへの関心をもってもらい、NGOや国際協力への参加のきっかけとしてもらうため。対象とする参加予定者及び人数: 大学2年生以上、70人程度

3. 実施内容:



【当日のスケジュール、概要】

- 1) 「NGO プチ入門講座」にて、NGO の持つ意味、NGO の役割などを説明した。
- 2) スタディツアーを企画する 2 団体から団体の概要とツアーの概要を説明。
 - 1、ホープ・インターナショナル開発機構。
 - 2、日本ハイラル平和の森協力会
- 3) 写真等を使い、私たちの住む世界の現状を説明
- 4) 世界の現状を変える為に私たちは NGO 活動をおこなっています。みなさんも、是非 1 歩を踏み出してみませんか。と、投げかけた。
- 5) スタディツアーに参加が難しくても、ボランティアやインターン、会員になり、NGO 活動に参加できることを伝えた。

外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

5月30日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 愛知淑徳大学 国際理解教育論

(ア) 【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】

2. 催しの概況:

実施日 平成23年6月7日(木) 13:30~15:00

場所 愛知淑徳大学星が丘キャンパス(名古屋市名東区)

対象者 大学2~4年生約60人

概要 企画内容: 国際理解教育に関する授業を行い、私たちの暮らしと世界のつながりについて考える。目的としては、地球規模の課題とわたしたちの暮らしとの関係を学び、行動を起こすキッカケづくりを行う。対象とする参加予定者及び人数: 大学2年生以上、60人程度

3. 実施内容:



【当日のスケジュール、概要】

- 1) 今日のねらい、自己紹介、アイスブレイク
- 2) 中国山岳少数民族についての話
- 3) 山岳少数民族の話を聞いて疑問に思ったこと、自分たち
にできる支援方策について考え、グループごとに共有を
行った。
- 4) グループごとに全体で発表を行った。
- 5) 中国の山岳少数民族の生活と私たちとの生活のつながり、
本当に必要とされる“支援”“観光”についての説明。
- 6) 中部地域のNGOについての紹介、名古屋NGOセンターの
紹介を行った。

【生徒の感想】

- ・初めてのワークショップ形式での授業にとっても新鮮で、積極的に参加することができた。
- ・普段の生活の中で途上国の暮らしの現状について考えることはなかったが、私たちの暮らしとのつながりを考えることができて良かった。

2011（平成23）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 瀬良香織

1. 企画名：スタディツアー説明会 ～行ってみよう！もうひとつの旅～

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成23（2011）年6月4日（土）

13時30分～17時00分

場所：キャンパスプラザ京都

出張者氏名：瀬良香織



2. 実施内容：

夏にスタディツアーを実施する予定の NGO が集まり、ツアーへの参加を検討している人を対象に情報提供を行った。第1部はスタディツアー参加者によるトークイベントをおこない、第2部は各 NGO がブースを出展し、参加者はブースをまわって、個別に説明を聞いた。当会は、スタディツアーの危機管理（旅行業法や保険、健康管理など）に関するセミナーを実施していることもあり、ツアーへの参加を検討している方、ツアーを実施している団体関係者、双方からの相談に対応した。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：60名、ブース出展：19団体

4. 所感及び効果等：

スタディツアーへの参加を検討している人を対象とした企画だったため、相談内容の多くはスタディツアーの選択に関する内容であった。当会は、参加者の関心に耳を傾け、客観的な立場から最適な NGO やツアーの紹介をおこなった。そのほか、旅行保険、NGO への就職などについても質問がよせられた。旅行保険については、スタディツアーの危機管理についてもセミナーを実施している経験から、具体例を挙げて加入の必要性を説明することができた。

また、ブースを出展していた NGO から「今後、関西地域での活動も検討している」との相談があった。

NGO 相談員が参加した効果として、スタディツアーだけでなく、就職や関西地域での活動展開を検討されている NGO に対しても相談対応をおこなうことができ、非常に有意義であった。



以上

2011（平成23）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 瀬良香織

1. 企画名：学生は世界でどう成長するか GLOCOL・NGO の海外体験型教育プログラム

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成23（2011）年6月10日（金）17時～20時
場所：大阪大学豊中キャンパス スチューデントcommons 1F
出張者氏名：瀬良香織

2. 実施内容：

主に大阪大学の学生を対象とし、同大学の海外体験学習プログラムの説明とあわせて、関西地域の NGO によるスタディツアーの紹介をおこなう。当会は、スタディツアーや国際協力・NGO 全般に関する相談を受け付ける。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：72名、ブース出展：10団体



4. 所感及び効果等：

当日は、あいにくの雨模様にも関わらず、海外体験学習に関心のある学生を中心に多数参加者が集まった。プログラムは、1部と2部にわかれており、1部では大学の海外体験プログラム（フィールドワークなど）と NGO のスタディツアーを比較したり、大学と NGO との連携を検討する内容であった。当会は、大学のフィールドワークのコーディネーションもおこなっており、その立場から両者の役割分担などについて説明した。

第2部は参加した NGO がブースを設け、参加者が自由に移動して個別相談をおこなった。当会は、インターンやボランティアに関する相談などに幅広く対応した。

相談者に NGO 相談員制度について説明すると、関心を持たれる方が少なくなかった。行政や ODA と NGO の連携についても説明する機会となった。



以上

平成 23 年 7 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名：国際協力活動とアフリカ
【形態：講演・その他（意見交換会）】
2. 出張者氏名：竹内よし子
3. 依頼元／主催団体名等：愛媛県新居浜東高等学校
4. 実施日時：平成 23 年 6 月 14 日（火）
 - ・ 15：40～16：30 講演
 - ・ 16：45～17：15 人権委員、地域・国際研究部員との意見交換会
5. 実施場所：愛媛県立新居浜東高等学校
(愛媛県新居浜市東雲町 2 丁目 9 番 1 号)

6. 実施の概要

新居浜市内には国際協力 NGO がいないため、国際協力への理解促進に力を入れている教員から依頼を受けて企画を立てることとなった。この高校は進学校であり、大学への進学のみを考える前に国際協力に関わる大切さ、アフリカの現状、NGO で働くことなどを通して知ってもらうことをねらいとした。

最初に高校 3 年生約 300 名を対象に「国際協力活動とアフリカ」をテーマに講演し、モザンビークの現状と当団体の国際協力活動を事例に国際協力の必要性や自分に何ができるかについて考えてもらった。

次に、人権委員、地域・国際研究部員 12 名がひとり一人意見や感想を発表しながら共有し、高校生ができる国際協力について話し合った。

相談員自身も高校 1 年生の時に JICA 青年海外協力隊の募集広告を新聞で見たことをきっかけに国際協力に興味を持ったこと、その後、すぐに活動する場がなかったものの、時間を経て今の NGO 活動に関わっている、といった経験談に共感・興味を持ってもらえた様子だった。

高校生目線で伝えることに注力できたと思うが、この学校では、国際協力活動に熱心な先生がおられるので、先生と共に生徒が得られる「知るチャンス」「行動するチャンス」を生かして欲しいと伝えた。

以下は当日行った相談対応の内容である。また、この出張サービスの後、高校生が実際にボランティア活動に参加してきたことを付しておく。

- ① モザンビークの「銃を鋤へ」平和構築プロジェクトで武器と物資がどのように交換されているのか、具体的な交換条件を教えて欲しい、という質問に例えば、AKM1丁と自転車1台など、交換レートが決まっていると回答した。
- ② モザンビーク以外の国の支援はしているのか、行わないのか、という質問に東ティモールのフェアトレード商品購入など、国内でできる支援を継続していると回答した。
- ③ モザンビーク支援を通じて、考え方や生き方など、何がどう変わったか知りたい、という質問に例えばモノを買うときにフェアトレード商品のマークがあるかどうか、生産者がどこの国の誰かなどを確認するようになり、リデュース、リユース、リサイクルなどを積極的に行うようになるなど、「必要かどうか」を考える機会が増えたこと、「知らせなくては」と思うため、人前で話がどんどんできるようになったなど、意見をカタチにしていけるようになった、と回答した。
- ④ 途上国の自立とは、という質問に日本もエネルギーや食糧など海外に依存しているの、途上国に限らず、「自立した」というのはどういう状態のことかを考えていくのはとても大切であり、友人と大いに議論してもらいたい、と回答した。
- ⑤ 現地の支援を長く行なって、その成果は見えるのか、何が成果なのか、という質問に自転車の供与を通じて、子ども達が6・7年生の小学校後期にも通える率が高くなっていること、10キロ~15キロの道のりを歩いて通っていた子ども達が自転車で来れるようになったことなどは、解りやすい成果であることを説明した。



以上

平成 23 年 7 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名： ESD-J 全国ミーティング
【形態：相談対応サービス・講演・その他（展示）】
2. 出張者氏名：
竹内よし子（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
阿部真理子（認定 NPO 法人国際ボランティアセンター山形）
3. 依頼元／主催団体名等：認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）
4. 実施日時：
 - ① 6 月 25 日（土）16:05－16:20
分科会に向けた問題提起：被災地を支援するネットワーク
阿部真理子（外務省 NGO 相談員、IVY 国際ボランティアセンター山形）、
竹内よし子（外務省 NGO 相談員、えひめグローバルネットワーク）
 - ② 6 月 25 日（土）12:00～18:00（休憩時間と 16:30-18:00）、および、26 日（日）9:30～15:00
NGO 相談員相談対応コーナー設置
 - ③ 外務省 NGO 相談員、IVY および EGN による取組み紹介コーナー設置（展示）
6 月 25 日（土）12:00－18:00、および、26 日（日）9:30－15:00

5. 実施場所：宮城教育大学（仙台市青葉区荒巻字青葉 149）

6. 実施の概要

ESD-Jの全国ミーティングは、震災復興において、生物多様性（自然や気候風土と呼びかえてもよい）やそれに根ざした生業と、住民主体の視点が非常に重要であり、ESDのネットワークとして何ができるか、を考えることを大きな目的として開催された。

ESD-Jの構成団体は、全国の環境・教育・福祉関係者が多く、ここ数年で意識的に国際協力NGOや外務省相談員を受託しているネットワークNGOとの連携を進めているところ、これまで、NGO相談員連絡会議でESDの紹介が行われてきた経緯はあるが、今回は、逆に、ESD-Jの全国ミーティングで外務省NGO相談員を紹介する最良の機会として企画し実施したものである。

ESDに関わる多様なセクターからの参加者より、以下の相談に応じた。

あいにく、新しいNGO相談員のポスター、チラシが配布される前だったため、会場では昨年度のポスターと当団体が作成したものを使用した。

- ① NGOとしての震災支援活動について教えてほしい、という質問にIVYの「Cash for Work」の取組みについて紹介した。
- ② なぜ国際NGOが地元の緊急支援を行っているのか、という質問に山形はほとんど被害を受けていない地域であること、IVYのカンボジア支援の経験が活かせること等について説明した。
- ③ 支援活動を行っている中で気づいたことや気をつけていることについて教えてほしい、という質問に、今回の震災で東北地域の人たちは初めて国際協力NGOに接した人が多いと考えられ、国際協力についての裾野・理解促進になっていると感じていると回答した。
- ④ 四国の国際協力活動の現状やこの分野での就職の可能性があるか聞きたい、という質問に、「四国・国際協力NGOとODA」の冊子を渡し、JICA四国と四国NGO研修が年2回研修を行っているのでその機会を活用すれば、さまざまなNGO関係者に一度に直接会うこともできると情報提供した。
- ⑤ どのようにESDのモデル事業を自治体と組めるように働きかけたか、という質問に自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業に松山市から応募して

もらった経緯やノウハウを紹介し、具体例があることを説明して活用してもらえよう報告書を手渡した。

- ⑥ 特定の学校でしか ESD の実践ができないのではないかと、NGO との連携の具体的な方法はどのように進めるのか、という質問に松山市との協働事例の結果、松山市国際交流センター主催「ESD コーディネーター派遣制度」が新たに予算化して活用できるよう体制が整っており、市内全域、どの小・中学校および高校でも、その制度を活用できるようになって公平性を担保していることを説明した。また、その派遣の調整段階で、学校と NGO がスムーズに連携できるようアレンジが必要となるが、その点については、今も制度として定着するよう働きかけていることを説明した。
- ⑦ 被災者支援のために大学生がいろいろ活動しているが、組織基盤がないので継続が難しい、アドバイスがほしい、との相談に対して、今回の震災支援活動している個人・団体は多様であり、「大学生」という切り口で関わり続けたり、一旦離れても戻りやすくするしくみが出来たら良いのではないかと話し合った。愛媛県の大学生がネットワークを継続しようと努力している事例も紹介し、後日連絡を取り合えるよう紹介するとともに、ESD-J 側でもサポートできるような HP 作成など提案すると良いなどのアドバイスを行った。



以上

平成23年7月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：(特活) 沖縄 NGO センター

いのちをつなぐアースハーモニー2010 実行委員会

2. 実施日時：平成23年6月11日 9:00～18:00

平成23年6月12日 13:00～16:00

3. 実施場所：沖縄キリスト教学院大学 SHALOM 会館

4. 実施内容：沖縄県内のフェアトレードショップと NGO 団体が一同に集まり、世界で起きている問題に触れ、私達ができることを考えるきっかけを作るイベント「いのちをつなぐアースハーモニー2010」のイベントを開催。映画上映後のトークショーへの参加の他、相談員ブースでは、エネルギーやフェアトレードに関する資料、その他 NGO や国際協力に関する資料を置き閲覧コーナーを併設し、来場者の質問に答えた。

5. 参加者人数：総勢300名

6. 所感及び効果

今年で5回目の実施となる。来場者は300名程度であったが、暮らしからエネルギーを考えることをテーマにした映画上映と参加団体のトークショー、東北大震災の被災地でボランティア活動を行った団体の報告会を開催した。震災後ということもあり、関心を持っている方が多くいることが分かった。相談員ブースを設けることで、暮らしの中の課題と国際協力や NGO の活動も併せて紹介することができたのではないかと思う。



相談員ブースにて、資料提供と相談対応。